

タチキランソウ *Ajuga makinoi* Nakai

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 9。東海地方西部に分布の中心を持つ本地域の準固有種であるが、県内では生育地も個体数も多い。

【形態】

山地に生える多年草。茎は株から数本束生し、通常斜上するが倒伏して開出することもあり、長さ 5~20cm、全体に長い白毛が散生する。葉は対生し、下部の 1~2 対の葉は鱗片状またはさじ状となる。上部の数対の葉は長楕円形、花時には長さ 3~5cm、幅 1~1.5cm であるが夏葉はより大きくなり、先端は鋭~鈍頭、基部は細まって柄となり、辺縁には少数の先の円いあらい重歯牙がある。花期は 4~6 月、花は上部の葉腋に数個ずつつき、花冠は青紫色で長さ約 15mm、上唇は直立し、長さ 2~3mm あって 2 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山(芹沢 51339, 1989-4-29)、2 豊根(芹沢 51313, 1989-4-29)、3 東栄(芹沢 48104, 1988-4-17)、4 津具(芹沢 83954, 2009-5-5)、6 設楽西部(芹沢 81424, 2007-5-28)、7 設楽東部(芹沢 68997, 1994-4-26)、8 鳳来北東部(芹沢 83968, 2009-5-5)、9 鳳来南部(芹沢 48127, 1988-4-17)、10 鳳来北西部(小林 60812, 1997-4-19)、12 新城(小林 60807, 1997-4-19)。西：5 稲武(小林 43075, 1993-5-22)、23 藤岡(塚本威彦 69, 1992-4-26)、24 豊田東部(佐藤久美子 321, 1993-5-4)、25 豊田北西部(畑佐武司 3085, 2002-4-20)。尾：37a 瀬戸(塚本威彦 3013, 2002-4-28)。11 作手(小林, 2000)と 13 豊川(旧音羽町, 小林, 2004)にもあるという。

【国内の分布】

本州(関東地方南西部~東海地方)。

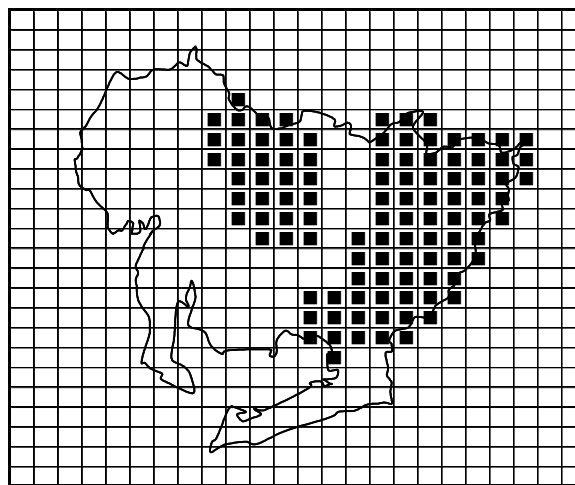
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境/生態的特性】

山地の、主として沢沿いの林内や林縁に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況/減少の要因】

東三河の山地では比較的多い植物で、自然林や二次林だけでなく、造林地や林道わきなどにも生育している。しかし、西三河や尾張の低山地では少なく、丘陵地には見られない。

【保全上の留意点】

県全体としては当面絶滅が危惧される状態ではないが、特に尾張では生育地が限られており、保護を要する植物である。

【特記事項】

茎はキランソウよりは立つが、ニシキゴロモほどは立たない。東三河には花が大きい典型的な形態のものが多く、西三河や尾張のものはしばしば花が小さく、その点でややキランソウに近い。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.136. 愛知県, 名古屋
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.157. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本 I p.190, 平草本III p.74, 平新版 5 p.111.